

## 異聞奇事

○理科一部四年の門田鏡子物理の實驗にて、X線により手の寫眞を撮らんとし、右手の上にフェーズワイヤを曲げて作ったKの字を載せ、五六分づ、數回暴したるに、二週間許の後右の皮膚にKの字薄白く現はれ且その皮膚が日に焦げたる如く黒くなりぬ。

長時間X線に暴せば此の如き作用を受くることは、本にも書いてあるが同君の實驗で確かな事實といふことが解つた。

若し顔面へ放射を受けて居ると、皮膚が黒くなる許りでなく、表情が出来なくなるといふことを聽いて、X線といふと側へ寄りつかぬ女もある。併しそれは毎日々々X線に觸れて居る醫者などのことで、學校の實驗などでは、表情の出来ない容貌になつた例は未だ嘗て之なし、先以て御安心可被遊候。

○小林照朗君或日物理室へ來られ、「僕の内で一燭の電燈を廊下へ點けやうと思てるが、或人の話によると割合に餘計メートルが動くといふことだが君一寸驗して見て呉れたまへといふ、早速メートルに連ねて點燈しつゝ、ストップワッチでメートルの回轉周期を測らせた（小川淑、神林甫）

所が驚くべしタングステンの五燭と炭素線の一燭とで、回轉數が約一と二との割合であつた。つまり炭素棒の一燭の方を燈すといふとタングステンの五燭を點するよりもメートルの針が二倍餘計に廻るといふことになる。但是は小林君から受取つた小電球一つに就ての試驗であるから市中に賣つて居る一燭電球を五六個方々異つた店から買ひ集めて試験をしなければ一概にさうだとも言へないが先づ大體に於て誤りはなからう。

## 採集日記 (動物)

臨海實驗 三崎小網代ナル東京帝國大學臨海實驗場ニ於ケル我校理科生ノ臨海實驗ハ例年動物ノミニ止メ植物ハ別ニ他方面ニ向ハレシガ本年ハ動物ノ後ニ續ケテ同所ニ是レヲ行フ事ト一昨年迄三年生ナリシヲ本年ヨリ四年生ニ改メタル等少シノ變更アリ

五月七日ヨリ十日迄動物ノ實驗ヲ續ケ十一日ニハ植物實驗十二日一同歸校ス

昆蟲採集 三年四年交番ニテ平島助教教授ノ引率六月七日ニハ國分寺ヨリ井ノ頭小金井方面ニ採集

十月四日大宮公園附近舊街道ヨリ浦和方面ニ採集セリ

十月十八日玉川附近ニ採集ス

(植 物)

四月十九日 理二ノ二 櫻草ニテ有名ナル戸田原ニ行ク  
 五月十一日 十二日 理二ノ四 八日以來ノ三崎ニオケル動物臨海實驗ノ後ヲウケテ海藻、海濱植物ノ觀察サテハ顯微鏡的實驗等ニ流石ノ春ノ日モ暮レハテ、ランプノ光ニヤウヤクニシテ片ツク。十二日ノ歸途ハ陸路ヲトリ久里ガ濱ニモ立寄り途中ハ例ノ如ク採集  
 五月廿二日 理二ノ三 午後小石川帝國植物園ヲ觀ル  
 六月七日 理二ノ二 高尾山ニ採集ス  
 六月十五日 理一ノ二及理一 初メテノ採集ナリ新宿ニ行ク  
 七月十一日 理二ノ二 午前五時半上野發日光ニ向フ馬返ヨリ中禪寺迄次第ニ緑深キ山ニ進ミツ、周圍ノ植物ヲ觀察シツ、六時宿ニツク七時半ヨリ採集植物ノ整理ヲハジメ十一時ニ終ル  
 七月十二日 同 中禪寺湖ノ Plankton ヲ觀察ス七時半發足、湯本ニ向フ戰場カ原兎島等モ過ギ湯本ニツキシハ午後六時、採集物ノ整理ヲ終リシハ十一時半  
 七月十三日 同 湯湖ノ Plankton 及硫黃バクテリアヲ觀察シ八時宿ヲ出ヅ前日ノ觀察ノ遺漏ヲ補ヒツ、中禪寺ニ至ル途中帝室林野管理局出張所ニ立ヨル、九時半ニ整理ヲ終ル  
 七月十四日 同 八時發足日光ニ向フ花石町ナル帝國大學植物分園ニ至リ高山植物ノ觀察ヲ再ビ

シテ後東照宮ニ詣デ六時十五分發列車ニテ歸途ニツク

九月廿四日 理二ノ三及理二ノ二 高尾山ニ登ル  
 九月廿七日 理一ノ二及理一 井ノ頭方面ニ  
 十月三日 理二ノ三 午後玉川ナル東京府立園藝學校ヲ參觀ス  
 十月十七日 理二ノ二 江ノ島鎌倉方面ニ遠足ス採集ハ隨意トナシタレドモ海濱植物ノ觀ルベキモノアリ  
 十月廿五日 理二ノ三 池上ノ本門寺ニ行ク、歸途大森ノ海岸へ出デ淺草海苔採集ノ様ヲ觀察ス  
 十一月八日 理二ノ二及理一 鴻之臺ニ

參 觀 日 記 (化學及物理)

大正三年十月三日 理科一部二年生化學教官ニ從ヒテ本所ガラス工場三ヶ所ヲ參觀ス  
 大正三年十一月七日 理科一部四年生化學教官ニ從ヒテ目黒ビール會社ヲ參觀ス  
 十月三日 理科一部四年生は物理教官及小川舍監に從ひて芝の電話交換局を參觀したり。同局は近來發達したる共同電池式の電話交換をなすものにして發電機蓄電池(小なる風呂桶大きな)等種々參考となるべきもの多く係員も親切に説明せられたり。特に同年輩の女子判任官二人出で來り